



ドア (枠)

取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡してください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- ドア本体に錠セットを取付けてラッチをかけて鍵を締めてから、枠を躯体に固定してください。ドアが勝手に開き、ケガをするおそれがあります。
- ドア本体の落下・故障の原因になりますので、下記事項をお守りください。
 - ・各種取付けねじは、 $2.5 \pm 0.5N \cdot m$ { $25 \pm 0.5kgf \cdot cm$ } のトルクで止めた後、ゆるみ・ガタツキのないことを確認してください。
 - ・各種取付けねじは、必ず指定の取付けねじで固定してください。
 - ・上枠取付金具取り付けねじを全部外さないでください。
- 漏水のおそれがありますので、下記事項をお守りください。
 - ・土間納まり以外に使用する場合、および2階部に使用する場合は、必ず防水処理を行ってください。
 - ・縦枠下部キャップの水抜き穴を塞がないでください。

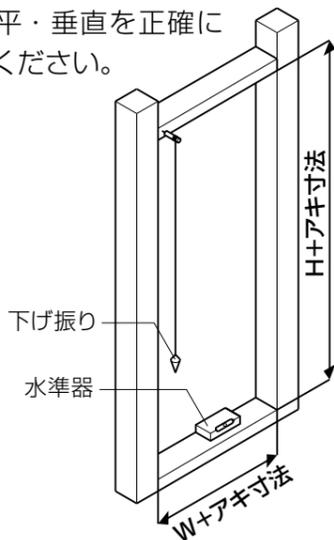
■ねじ・部品一覧表 (枠取付け用)

①	②	③	④	⑤	⑥
皿木ねじφ3.8×56 (上枠用)	皿木ねじφ3.8×38 (縦枠用)	ナベタッピンねじ φ4×25	皿木ねじφ3.1×20 (額縁アングル用)	スパナ	ワッシャー

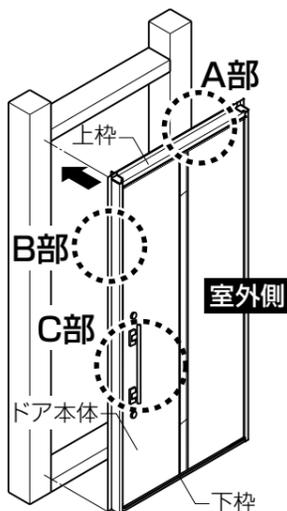
■取付け順序

1 開口部の作成

※上枠・下枠・縦枠取付け面の水平・垂直を正確に出してください。



2 開口部への取付け



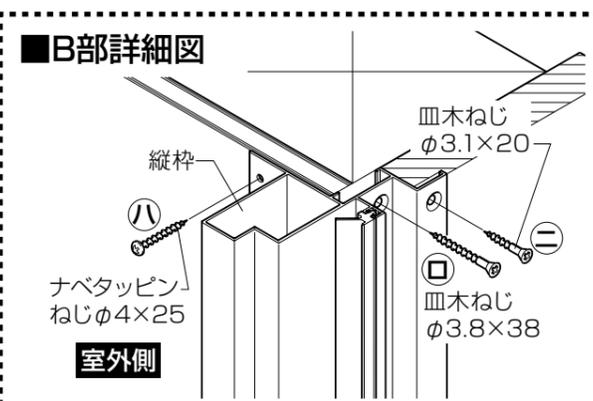
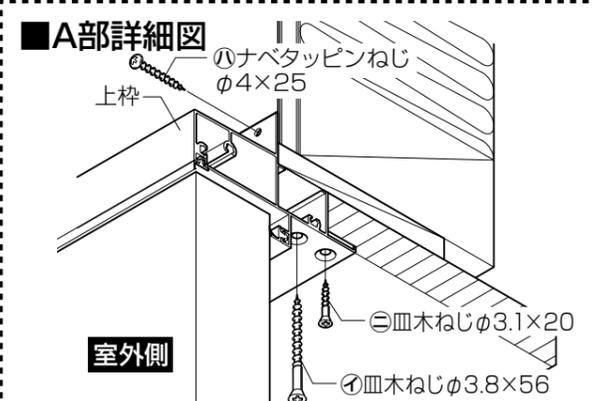
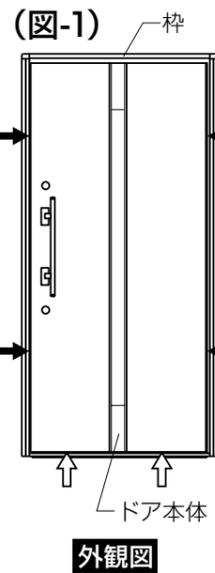
3 ストライクの調整

4 ドアガードの調整

■取付け詳細

2 開口部への取付け

- ①ドア本体を枠に吊込んだ状態で、室外側から開口部にはめ込みます。
 - ※ドア本体と枠のすき間が納まり図通りであることを確認してください。
 - ※開口部と縦枠のすき間は左右均等にしてください。
- ②上下 (↑) および左右 (←) のすき間を均等にし、戸当りパッキンがドア本体と密着するように調整します。(図-1)
- ③室外側から固定します。
- ④ドアの開閉がスムーズにできることを確認し、室内側から固定します。

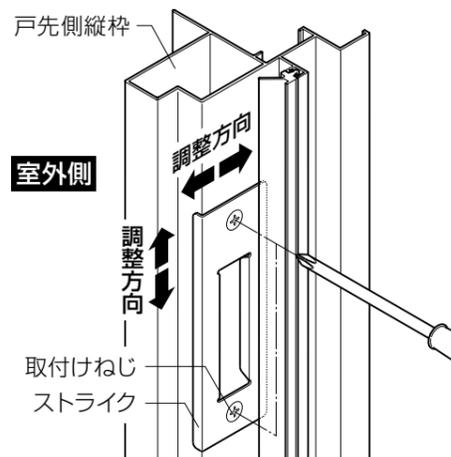


▲注意

- ドア本体に錠セットを取付けてラッチをかけて鍵を締めてから、枠を躯体に固定してください。ドアが勝手に開き、ケガをするおそれがあります。(C部)

3 ストライクの調整

- ドアロックのラッチがかからない場合は、ストライクの取付けねじをゆるめ、ストライクの位置を調整してください。



■建付け調整

※ドア本体を吊込んだ後、枠とドア本体のすき間が納まり図通りになっているか確認してください。すき間が納まり図通りになっていない場合は、以下の手順ですき間を調整してください。(納まりは、「■参考納まり図」を参照してください。)

■左右方向のすき間の調整

- ①扉を 90° 開きます。
- ②上枠取付け金具のねじ 4 本をゆるめます。
- ③室外側方向に 2.5mm、室内側方向に 0.5mm、戸先側方向に 2.5mm、吊元側方向に 0.5mm 動きますので、位置が決まったらねじを締直してください。
- ④ピボットヒンジ下部軸のねじ 4 本をゆるめます。

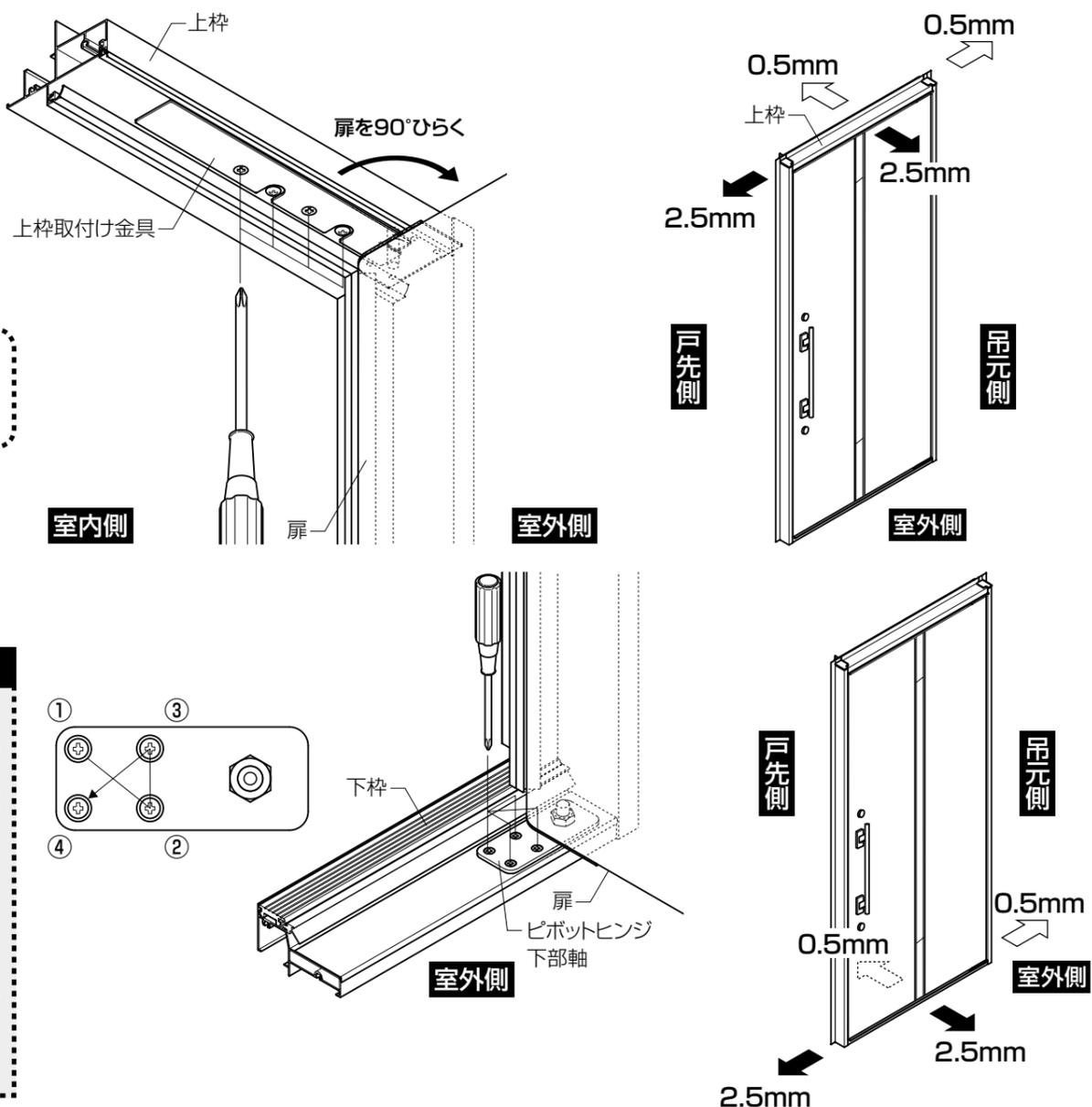
お願い

ピボットヒンジ下部軸のねじを全部外さないでください。裏板がはずれ、取付けられなくなります。

- ⑤室外側方向に 2.5mm、室内側方向に 0.5mm、戸先側方向に 2.5mm、吊元側方向に 0.5mm 動きますので、位置が決まったらねじを締直してください。

▲注意

- 建付け調整後、上枠取付け金具取付けねじは、必ず締付けてください。ねじの締め付けがゆるいと、ドア本体のガタツキ・故障の原因になります。
- 建付け調整後、下枠のピボットヒンジ取付けねじは、必ず 3.0N・m{30kgf・cm} 以上のトルクで対角順に締付けてください。ねじの締め付けがゆるいと、ドア本体のガタツキ・故障の原因になります。

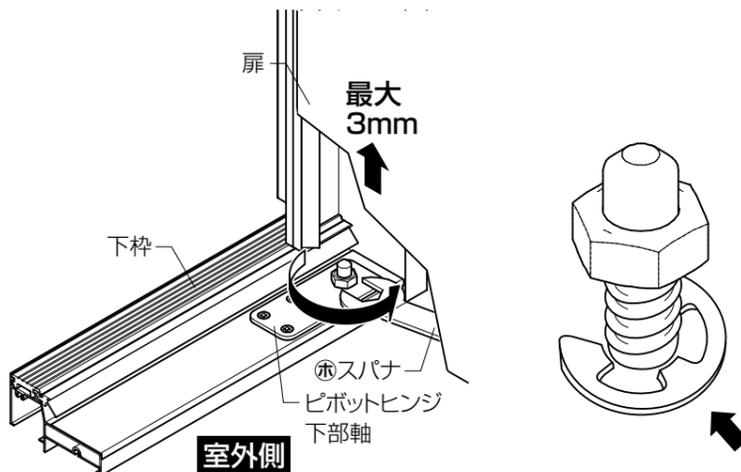


■上下方向のすき間の調整

- 取付けねじセットに同梱されている六角スパナでピボットヒンジ下部軸のナットを右に回すことで上に最大 3mm まで動かせます。ナットを上げた後、ワッシャーを差込んで再度ナットをしめつけてください。

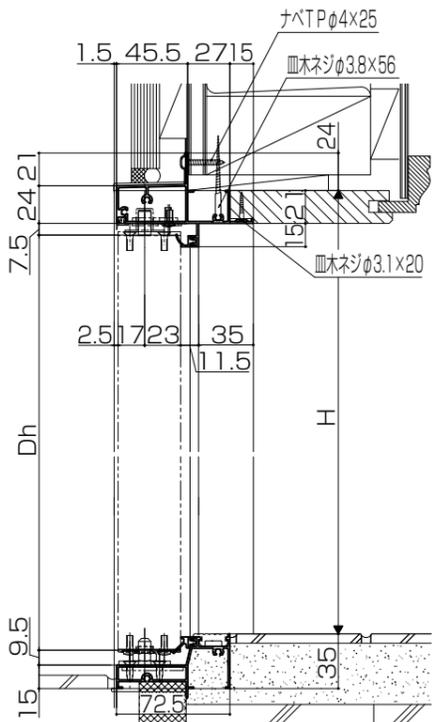
▲注意

- スパナ等でたたいたり、締め付け過ぎないようにしてください。軸が変形し、本体のガタツキ・故障の原因になります。



■参考納まり図

●縦断面図



●横断面図

